

第37回福岡県美しいまちづくり建築賞 受賞作品概要

住宅の部 大賞

「^{みちやま}道山さんの家/^{いえ}三角敷地の道と屋根^{みち や ね}」

設計趣旨

道山さんの家は福岡市の室見川にほど近い街に計画した店舗併用住宅です。

敷地形状はほぼ三角形で、中層マンションの立ち並ぶ大通りと住宅街のはざまにある鋭角な角地でした。元々は古い木造2階建てのご実家が建っていたのですが、この数十年で周りの風景も変わり、立地も良いことから将来貸し店舗を併設した住まいの設計を求められました。暮らしのイメージとしては街とのんびりとした連続感があり、人が気軽に集まり長居してしまうような居心地の良い家をご希望されましたが、幅員30mと幅員4mという両極端な2つの道路に面した角地であり、しかも三角形であるため敷地周長の2/3以上が道路に接していました。あからさまに住居の一部が店舗であるのもプライバシーが守りにくそうです。そこでまず用途より先に大小の屋根がばらばらと分散しているような全体像をイメージしました。そしてその屋根の下にいろんな内外のスペースを内包するように計画しました。

平面形状がいびつであることから見る場所によって表情を変える複数の切妻屋根の連なる外観は、内部を想像されにくくしてご家族の暮らしを守るとともに、ダイナミックな軒先の変化が街ゆく人、子どもたちにとっても親しみのある存在になることを目指しました。とはいえ完成して2年が過ぎた現在、実はこの店舗スペースは未だ仕上げ未施工のまま、いつ貸し出されるのかはつき決まっていません。おかげで下地剥き出しの土間空間はちょうどいい子どもたちの遊び場になっており、この家のほどよい余白空間として暮らしと街のあいだに存在しています。そのうち貸し出されるかも知れませんが、もしかしたらこのままの時間がしばらく続くかも知れません。実はそもそも西側の駐車スペースは自家用ではなく、隣接する保育園の送迎用に無償で使ってもらうために計画しました。完成してみると近隣の街や社会にも余白を差し出し、貢献することのできるようなこの建築の佇まいや在り方は、まるで建主の人物を表現しているかのようだなと思います。

道ゆく人や子どもたちが気軽にこの屋根の下で道草したくなるようなそんな風景。家と街のあいだに。



©西久保殺人

一般建築の部 大賞

「^{ふくおかだいみょう}福岡大名ガーデンシティ」

設計趣旨

地域の歴史と文化を継承し都市を新たなステージへ

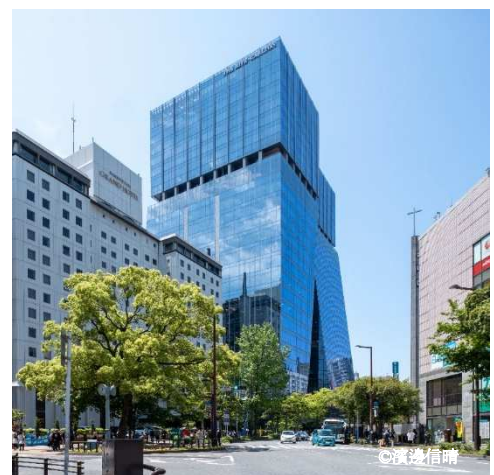
福岡市中心部における歴史ある旧大名小学校の跡地活用事業である。計画地である旧大名小学校は福岡市で最も古い学校で、そのグラウンドは地域のイベント活用など長く親しまれてきた場所である。一方で福岡市が進める都心部の機能向上を促す「天神ビッグバン」エリアの中で、市街化の進む天神地区と下町の雰囲気とを継承する大名地区の境界に位置し、それぞれの地区文化をつなぐ西のゲートとして位置づけられる施設である。

歴史ある小学校跡地を活用したクロスカルチャーの拠点

求められた校庭の保存を都市に開かれた広場「パーク」として再生し、オフィス・外資系ホテル・商業等を積層した「タワー」と、住宅と創業支援施設に地域の公民館などを加えた「テラス」などから成る複合施設である。大名地区の個性ある地域文化と開発が進む天神地区それぞれの新たな人の流れが囲われた広場で混ざりあい、新しい福岡の異文化交流拠点となることを目指した。

まちの特徴を活かした施設配置

大規模な建築物が多い天神地区と低層で下町的な大名地区や旧小学校校舎を、広場「パーク」が結節点となり、大小のまちのスケールと人や時の流れを違和感なく連続させ、都市の多様性を融合することができた。福岡大名ガーデンシティは、開かれた広場「パーク」を核に様々な人の交流と憩いの空間を創出し、これからの都心の広場のありかたを創出している。



©横濱信晴